不惑にあらず

紋別医師会
武田医院
武　田　秀　美

視力のいい人は早く老眼になる、という都市伝説を何の根拠もなく信じてしまった。40半ばを過ぎてから視力の衰えを実感しだしたが、同い年の知り合い数人に確認しても、誰もさほど不自由を感じていないようだったからだ。サバンナの遥か彼方のキリンを数えられるというマサイ族並の視力を誇り、眼鏡とはまったく無縁の生活をしてきたが、今では「そんなに遠くが見えても何の意味もない！」と、その能力に憤りすら感じる。

皮膚科という専門上、視診に支障をきたすのは致命的である。拡大鏡やダーモスコピーを駆使して何とかしのいできたが、それも限界が来た。某メガネチェーン店の戸をくぐり、開口一番「老眼鏡をください！」と言い放つ。「あ、シニアグラスですね」とさらりと言い直され、流れるように視力検査やフレーム選びなど一連の行程を経て、無事シニアグラスを作成。昨今のものはフレームも軽く、非常にスマート。しかし、眼鏡に縁のなかった自分にとっては、眼鏡を掛けた顔は不自然そのもの。何か仮装をしているようで気恥ずかしい。他人から見ればただの「眼鏡を掛けた人」という認識でしかないだろうが、自分ではなかなか受け入れられない。もともと目が小さく印象の薄い顔なので、眼鏡で目の位置がはっきり分かるようになっただけでもいいじゃないかと、自らを慰める。

よく見えるようになり、問題無事解決！　と言いたいところだが、常に掛けていることにはまだ抵抗があるため、眼鏡は職場に置きっ放し。すると家で調味料のラベルや洗剤の注意書きを読まなければならない場面に出くわすと、あまりにも小さい文字はいかに目から離してみようが、電球の下で照らそうが、読めないものは読めない。そこで100円ショップのシニアグラスを数個用意して、家に置いたり鞄に入れたりした。それらは見るという点では案外問題なく使えるが、鼻あての位置が合わず鼻メガネ状態になり、そこから眼球だけ上に動かして人の顔を見るという、ドラマや映画でよく見る古本屋の老店主のような仕草をしてしまう。ふざけてやっているうちは楽しかったが、実際にこれを自然にやってしまうようになると、何やら情けない気持ちになってくる。キチンと作ったシニアグラスを常にかけておくか、マダムのようにチェーンを付けてネックレスのように首から掛けておくかすればいいのだろうが…40にして惑わずどころか、年齢による身体の変化に戸惑いっぱなしの40代も、年女を迎え50代の予備軍となる。

年女所感

札幌市医師会
幹メンタルクリニック
山　本　　恵

皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。また申年が巡ってまいりました。半世紀近く生きていると、さすがに身体的変化は避けようもなく、ここ１～２年の間に老眼（老視が正式名称だそうですね）がかなり進んでしまいました。医学部同期の眼科の先生にお世話になっていますが、他の同級生の先生たちも相談に来て、遠近やら中近やらの眼鏡を作っていると聞き、「ああ、年取ったのは自分だけじゃないんだ、みんな頑張っているのだな」と妙に安心したりしています。それでも老化を否認したい気持ちが働くのでしょうか、老眼のための眼鏡はまだ必要ないと粘っていた自分ですが、薬剤情報を調べようと索引を引いたら頁の数字がはっきりと読めなくなり、観念して昨年は中近の眼鏡を作りました。今この原稿もその眼鏡をかけて書いていますが、焦点が合って快適です。

しかし、いつでもどこでもどんな小さな文字でも、時間があれば本を読んでいたのに、最近は眼鏡を作ったのにも関わらず、好きな読書の時間が減っていることに気が付きました。おそらく眼の問題だけでなく、本を読むという行為に必要な集中力や気力のようなものが以前より少なくなっているのかもしれません。

こういう風に書いてくると、何だか年を取ることでできなくなることばかりのような雰囲気ですが、逆のこともあります。例えば些細なことですが、あいづちのレパートリー（？）などは、年を経るにつれて増えているように思えます。20代の医師になりたてのころ、当時の教授の外来診察のベシュライバーに入っていた時に、患者さんのお話に教授が「ほう」とか、「へえ」とか、「なるほど」などとつぶやく姿は印象的なものでした。診察の合間に、「私も先生のようなあいづちを打てるようになりたいものです」と話したところ、「まあ、まだね…」と笑っておられたことを思い出します。確かに若いころは、自分より年上の患者さんのお話に「ほう」というのは失礼にならないかなどと、あいづち一つでも考えたりしていました。しかし、最近は年の功か、その時々に自然に浮かんでくる言葉をつぶやけるようになった気がします。人は変わっていくものですね。

今年一年でまた、自分はどんな風にあいづちを打つようになっていくのかなと考えると、年を取っていくことも悪くないなと思う新春です。